

1 策定の趣旨

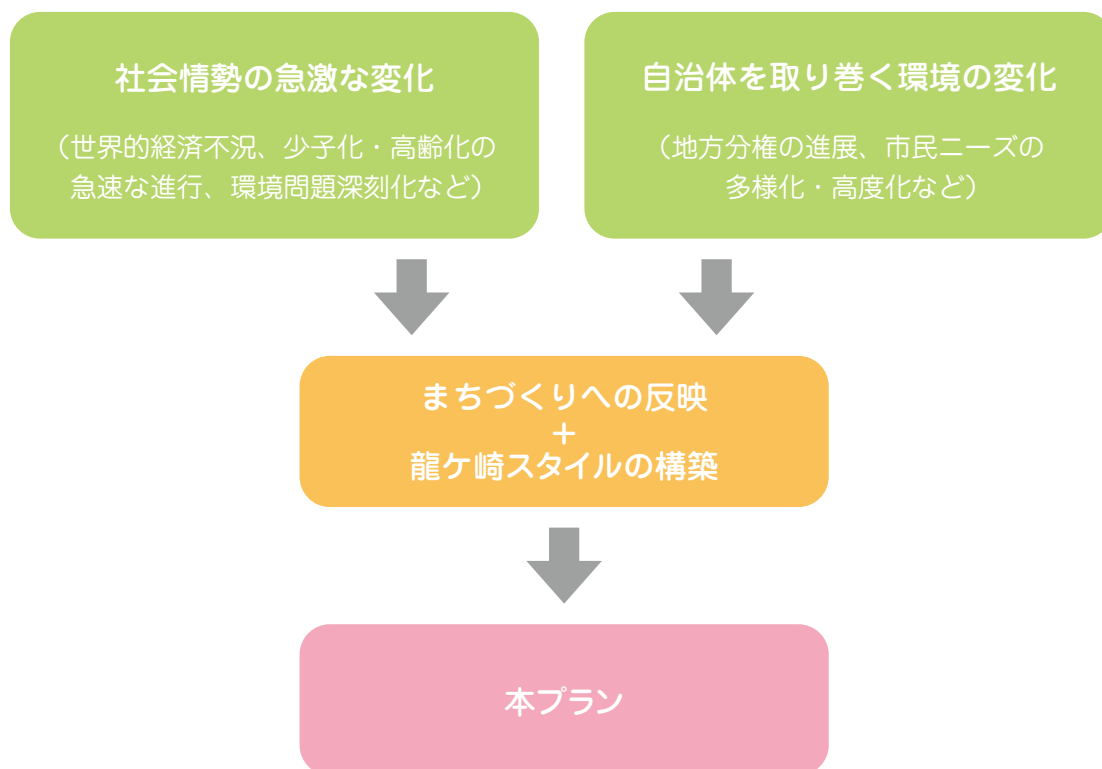
龍ケ崎市では、昭和48年3月に最初の総合計画を策定し、それ以降、時代の流れや市民ニーズにあわせて改定を行いながら、その時々に対応しい計画的なまちづくりを進めてきました。

しかし、ここ数年、世界的な経済不況や少子化・高齢化の急速な進行、環境問題の深刻化など、社会経済情勢はこれまで以上にめまぐるしく変化しています。

また、地方分権^{*1}の進展や市民ニーズの多様化・高度化などに伴い、地方自治体を取り巻く環境や期待される役割も大きく変化しつつあります。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、想像を超える甚大な被害をもたらすとともに、人々の意識やライフスタイル^{*2}までも変える大きな衝撃を与えました。そして、「自助・共助・公助^{*3}」それぞれの重要性が改めて問われはじめています。

このような時代の流れや変化を捉え、今後の本市のまちづくりに的確に反映させていくため、そして、龍ケ崎の個性を活かした「龍ケ崎スタイル」の構築に向けた新たな指針として本プランを策定しました。



*1 地方分権 : 特に政治・行政において統治権を中央政府から地方政府に部分的、あるいは全面的に移管することを指す。

*2 ライフスタイル : 生活の様式・営み方。また、人生観・価値観・習慣などを含めた個人の生き方。

*3 自助 : 自分の責任で、自分自身が行うこと。

共助 : 自分だけでは解決や行うことが困難なことについて、周囲や地域が協力して行うこと。

公助 : 個人や周囲、地域あるいは民間の力では解決できないことについて、公共(公的機関)が行うこと。